



とちぎデジタルミュージアム “SHUGYOKU” (珠玉)

工芸品

書跡・典籍・古文書

彫刻

建造物

民俗資料(有形・無形)

考古資料

無形文化財

栃木県生活文化スポーツ部
文化振興課 和久征夫

歴史資料

史跡・名勝

動物・植物・鉱物等

写真・映像(美術)

準備中

とちぎデジタルミュージアム“SHUGYOKU”（珠玉）とは

- 栃木県立博物館文化観光拠点計画の基盤となる「とちぎ文化芸術デジタルアーカイブ」の一般向け公開機能。
- 国・県指定等文化財、日光二社一寺の宝物、県立博物館・美術館の収蔵品を中心に、県・市町・民間所有等を問わず、栃木県全域の主要な文化資源を網羅（していく）
- 令和8年度まで重点的にデジタル化・機能追加を実施し、コンテンツ等を充実
- 県内全市町参加による「栃木県文化資源デジタル化協議会」立ち上げ、事業への関与
- 新たな撮影・デジタルデータ作成は栃木県の負担により実施（著作権は県に帰属）。
但し、所有者や管理者、市町のデータ利用については一切の制限なし
- システム構築・維持管理にかかる費用も全て栃木県負担

④2 栃木県立博物館文化観光拠点計画

計画作成・実施体制

文化観光拠点施設(設置者): 栃木県立博物館(栃木県)
 文化観光推進事業者: (公社) 栃木県観光物産協会(とちぎDMO)、(株) JTB宇都宮支店、栃木県サイクルツーリズム協会、関東自動車(株)、栃木県通訳案内士協会

計画期間

2022年度～2026年度(5年間)

目標

- ・観光目的客の県立博物館入館者数
 2017～2019年度平均 19.3%→2026年度 25% (+5.7ポイント)
- ・県立博物館外国人入館者数
 2019年度 100人→2026年度 500人(5倍)
 ※10年後(2031年度)には1,000人(10倍)
- ・デジタルミュージアムのアクセス数
 2022年度新規開設 →2026年度 46万アクセス 等

文化観光拠点施設機能強化事業

<1.文化資源の魅力の増進>

- ・とちぎ文化芸術デジタルアーカイブシステム導入、県内文化資源高精細デジタル化、県内逸品展開催、ガイド養成

<2.文化についての理解促進>

- ・デジタルミュージアム開設、テーマ別「とちぎの文化・自然」解説映像作成、エントランス等展示刷新、多言語化、サテライト展示

<3.文化観光に関する利便の増進>

- ・二次交通の充実(企画乗車券・サイクルツーリズム促進等)

<4.飲食、販売、宿泊等との連携の促進>

- ・ユニークベニュー造成、県内文化施設等連携促進事業

<5.国内外への宣伝>

- ・とちぎ旅ネットとの連携

<6.施設又は設備の整備>

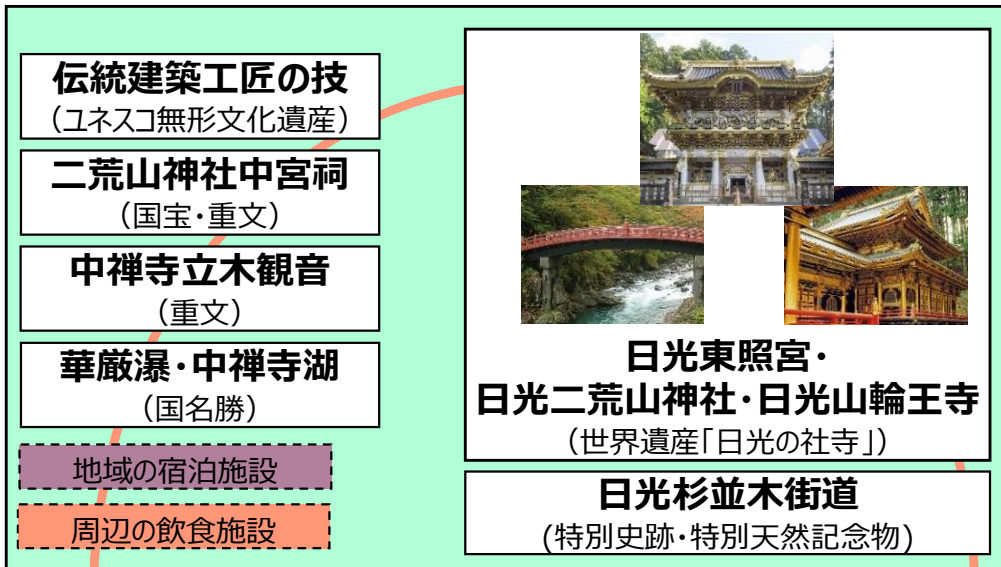
- ・Wi-Fi整備、映像上映施設整備、都市公園を借景とした文化体験施設整備

文化観光推進事業費(5年間の計画ベース)

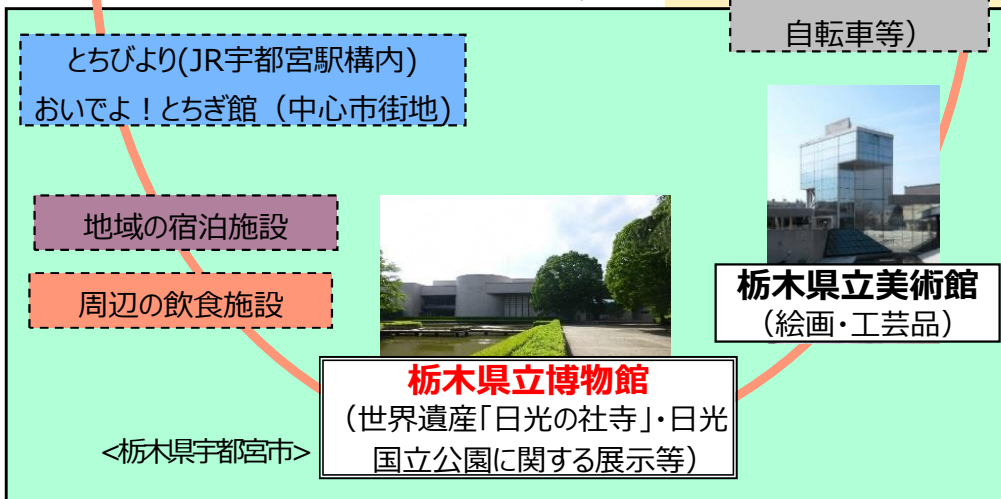
318百万円(うち、文化観光推進事業補助金210百万円)

計画区域

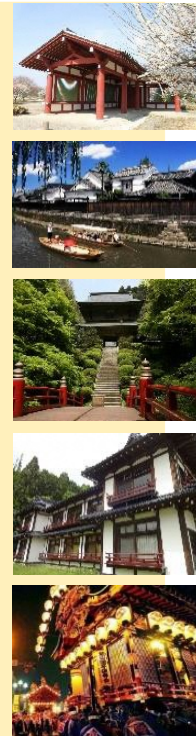
日光エリア



宇都宮エリア



日光関連の文化資源



とちぎデジタルミュージアム



中核文化観光拠点施設
(主要な文化資源)

主要な文化資源
(文化財等の種類)

飲食施設
販売施設

宿泊施設
その他施設

栃木県立博物館文化観光拠点計画(R4~R8)

現状と課題

- 世界遺産「日光の社寺」と関連文化資源を総合的に解説する拠点が無い
 - ・二社一寺(東照宮・輪王寺・二荒山神社)は各社寺に関する説明のみ
 - ・日光山内と奥日光、日光杉並木街道等との関連性認知度の低さ
 - ・鹿沼市・下野市・真岡市等、日光に深い関係を持つ他地域との連携希薄
- 歴史的価値の高い文化財・収蔵品の認知度が低い
 - ・国宝・重文ですら進展しないデジタル化
 - ・地域に点在する訴求力のある文化資源のPR不足
- 貴重な伝統芸能・技術の鑑賞機会を提供できていない
 - ・多くても年に1~2回のみ開催かつ上映・体験施設の未整備
 - ・少子高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症の余波による途絶の危機

対策

- 県域の総合博物館である栃木県立博物館による、文化・自然横断かつ広域的なストーリー展示
- 主要文化資源のデジタル化及び栃木県全体を網羅したデジタルミュージアム開設による一元的な情報発信、県立博物館等におけるデジタル技術を活用した展示
- 伝統芸能等の撮影・県立博物館における常設の上映施設・体験施設整備

栃木県立博物館の特徴

①栃木県全域をカバーする唯一の総合博物館

- ・文化・自然の横断的展示
 - 世界遺産と国立公園を一体的に説明可能
 - 県外の学校は、東照宮と県立博物館見学がセット
- ・社寺や施設、市町を越えた広域的な展示
 - 男体山の噴火から現代に至るまでの流れを網羅(男体山噴火、「日光開山」勝道上人、日光修験、「天下三戒壇」下野薬師寺、道忠教団、慈覚大師円仁、家康公遷座、「世界最長の並木道」日光杉並木街道、日光道中・例幣使道等の賑わい、門跡・御用邸等皇室との関わり、おくのほそ道、二宮尊徳、神仏習合の痕跡、「日本最古のリゾートホテル」日光金谷ホテル、イザベラバード、「夏の外務省」中禅寺湖畔、足尾銅山、世界遺産登録)

②特徴ある展示・収蔵品

- ・眠り猫・並木寄進碑等の原寸大レプリカ、スロープ展示
 - 現地でも不可能な距離・角度からの鑑賞、いろは坂を登るイメージで学べる体験型展示等
- ・栃木県所縁の狩野派(正信・興以・探幽等)
 - 国指定重要文化財「観瀑図」(狩野正信)ほか
- ・日本唯一の国指定有形民俗「野州麻の生産用具」
 - 日本の麻(無毒大麻)生産の約9割、ふるさと文化財の森(苧殻)を説明できる唯一の文化財。また、ユネスコ無形文化遺産「結城紬」、最古の機織り埴輪(重文)、江戸を席卷した真岡木綿、工業意匠登録第1号「雲井織」等、本県の優れた繊維産業を展示可能
- ・県立美術館と連携した竹工芸(人間国宝)等の展示

③「北関東最大都市」宇都宮市中心部という好立地

- 50万人超の人口及び首都圏等からの活発なビジネス往来という、大きな可能性を秘めた市場
- ・東京駅から宇都宮駅まで新幹線で約50分、日光まで40分(JRまたは高速道路利用)という交通の利便性
 - 日光への観光客が乗り換えで必然的に一時滞在。特にJRパスを購入できる外国人観光客には魅力的
- ・JR・東武鉄道や高速道路、旺盛なサイクリング需要、今後敷設されるLRT等、利便性の高い交通網
 - 宇都宮を起点に、県内全域への移動が可能
- ・県立美術館・宇都宮美術館、日本遺産「大谷石文化」等、訴求力のある近隣施設との相互連携
 - 歴史文化に関心の高い層や富裕層に強く訴求(=日光の客層とも合致)
- ・宇都宮餃子やジャズ、カクテル等、日光地区にはないナイトタイムエコノミーの活況、多数の宿泊施設
 - 栃木県滞在期間の延長、宿泊需要の取込、観光消費額の増加が可能

○文化観光拠点施設に相応しい性格
○文化観光推進に資する大きなポテンシャル

栃木県立博物館文化観光拠点計画(R4~R8)

文化観光拠点計画における新たな取組と効果

総事業費 318百万円

①無形の文化財含む県内文化資源高精細デジタルアーカイブ化(システム導入含む)及びデジタルミュージアム開設による一元的情報発信

○現状と課題

- ・地域住民すら認識の希薄な数々の貴重な文化資源(那須国造碑、太刀銘助真、宋刊本文選(金沢文庫本)等)
- ・知名度はあるが点在しており、誘客効果が限定的なもの(伊藤若冲、喜多川歌麿、ターナー、モネ、マグリット、ガレ、奈良美智等)
- ・県立博物館等における先端技術を活用した展示未整備

○具体的取組

- ・国指定・県指定文化財や著名作品、博物館収蔵品等、県内の主要文化資源の高精細デジタルアーカイブ化
- ・同アーカイブの公開(デジタルミュージアム開設)
- ・県立博物館等における展示への活用、サテライト展示の実施

○効果

- ・貴重な文化資源の見える化による認知度向上、現地を訪問するきっかけづくり
- ・一元的な情報発信によるシナジー効果、近隣の文化資源や観光施設等と連携した周遊ルート形成への寄与
- ・県立博物館等の展示の魅力向上、情報発信拠点としての機能向上

②県立博物館における常設の上映施設・体験施設整備

○現状と課題

- ・訴求力は高くとも、鑑賞機会・体験機会の少ない伝統芸能(多くても年間1~2回の開催)
- ・事前学習無しでは理解が困難
- ・少子高齢化、新型コロナウイルス感染症による行事の中止
- ・一部地域を除き、上映施設・体験施設未整備
- ・多言語化を含む、地域における外国人受入体制の未整備

○具体的取組

- ・県立博物館での上映施設整備(大型スクリーン等設置)
- ・県内全域の主要行事を網羅した映像の整備、上映(多言語化含む)
- ・伝統芸能等の体験施設整備
- ・技術保持者、芸能団体及び日光江戸村等文化アミューズメント施設と連携した体験イベントの定期的な開催

○効果

- ・鑑賞機会の少ない伝統芸能等の視聴・事前学習が可能
- ・芸能等の体験イベントの活発化
- ・特に外国人に対する魅力発信・理解度向上への寄与
- ・技術保持者・保存団体の活動の場提供による円滑な伝承
- ・県立博物館等の展示の魅力向上、情報発信拠点としての機能向上

③県立博物館の機能強化による日光をフックとした県内全域の魅力の効果的な発信

現在の県立博物館の機能に、①デジタル化された文化資源②伝統芸能等の上映・体験施設が加わることにより、展示内容・レベルが著しく向上

- ・二社一寺の誇る国宝・重要文化財等のデジタルデータが活用可能
- ・多数の観光客が訪れるユネスコ無形文化遺産等の多言語による視聴が可能

県立博物館を核に、日光→他地域、他地域→日光への好循環(日光+1)

デジタル化で残し伝えるとちぎの文化発信事業

○文化の魅力再発見



○郷土愛の醸成



○後継者の育成



○潜在的来館者への訴求



○観光客数等の増・回遊促進



R4

とちぎ文化芸術デジタルアーカイブの活用

- (1)とちぎデジタルミュージアム“SHUGYOKU”(珠玉)の開設
- ・汎用ブラウザによる閲覧・解説
 - ・方言や著名声優による音声ガイド
 - ・8Kデジタルサイネージでの閲覧



- (2)ARを活用した体験型展示(スマートグラス等導入)
- (3)教育現場等での活用
- (4)後継者育成での活用支援



R4

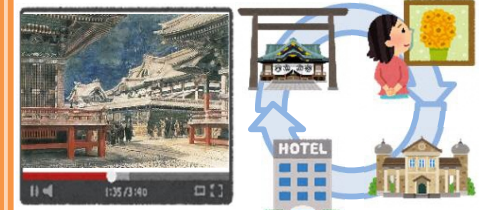
文化施設間連携強化

- (1)文化資源の共通デジタルアーカイブ化
- (2)県内逸品展開催
- (3)サテライト展示
- (4)相互割引等回遊促進



観光等他分野との連携強化

- (1)文化体験コンテンツ提供
- ・ユニークベニュー
 - ・新たな体験メニュー
- (2)文化観光情報の提供
- ・サテライト展示・多言語化
 - ・テーマ別解説動画作成



R4

文化資源の見える化

迅速な検索

分かりやすい解説

話題性のある展示

とちぎ文化芸術デジタルアーカイブ

クラウド

残したいもの・伝えたいもの

栃木県文化資源デジタル化協議会

県内各地の特色ある文化資源



伝統芸能

伝統行事

伝統技術

有形文化財

博物館等収蔵品

R5栃木県立博物館文化観光拠点計画 事業イメージ



国内700万
アクセス/年

とちぎ旅ネット特集記事【R5～】



世界5,147
万アクセス

The Grace of Japan,
TOCHIGI【R5～】



県内児童・
生徒19万人

GIGAスクール
【R4～】

博物館・
文化施設
【R4～】

交通機関・
観光施設
【R4～】

とちぎデジタルミュージアム



栃木県立博物館

○70インチタッチパネル式
8Kデジタルサイネージ【R4】



○音声ガイド
【R4～】



○上映施設整備(200インチスクリーン、
4K短焦点プロジェクター等)【R5】



○VR鑑賞【R5～】



○展示+AR+スマートグラス【R5～】



○Wi-Fi整備【R5】



R6以降さらに
魅力アップ!

サイクル
ツーリズム
【R5～】



博物館から日光へ
日光から博物館へ

テーマ別動画【R5～】



企画乗車券【R5～】



拝観者数
300万人/年



世界遺産
日光の社寺

【博物館と日光等との関係強化】
・ガイド施設としての位置づけ
・二次交通の整備

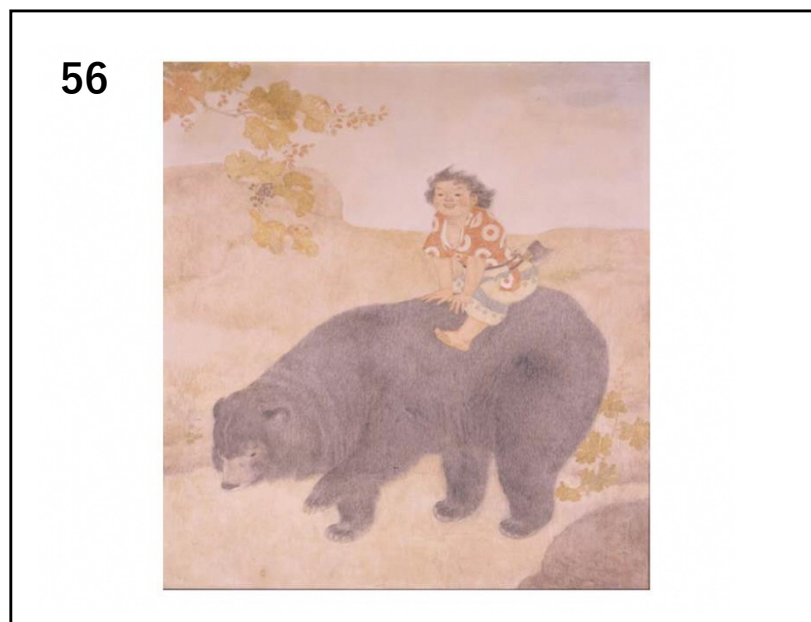
“SHUGYOKU”のさらなる活用への展望

【検討事例】

とちぎdeアートカード（仮称）

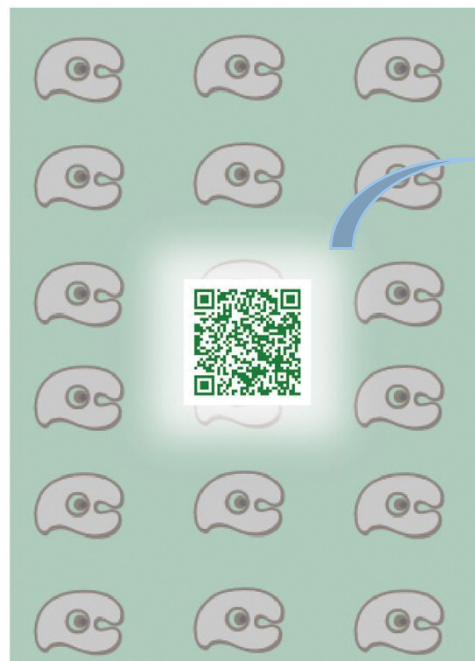
- ・ 県内各地の美術館・博物館または市町が所蔵する作品でバランスよく構成
- ・ 栃木ゆかりの作家の作品はもちろん、益子焼や竹工芸といった栃木が誇る工芸、地元の行事や風景などが描かれた作品を含めることにより、**美術教育だけではなく郷土学習にもつながる**
- ・ アートカードで作品に親しんだあとは、県内のミュージアム等で**実際に作品を見ることもできる**

おもて



自由な発想を促すため、作品画像番号のみを掲載

うら



QRコードで「SHUGYOKU」の作品情報ページを見ることができる

地域アーカイブの意義～“SHUGYOKU”（珠玉）を事例として～

単館・単一自治体だけでなく、地域全体を対象とし、地域全体が関与することによって…

- 一元的情報発信によるシナジー効果
- 周遊ルート形成への寄与
- 地域の新たな魅力・特徴が発見される可能性
- 地域全体でのデジタル化の底上げ
- 文化資源所有者の負担軽減
- 教育機関での活用促進・後継者育成への寄与